

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

The Association Between Maternal Shaking Behavior and Inappropriate Infant Parenting: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

母親の乳児への揺さぶり行為と不適切な養育行動との関連

ユニットセンター(UC)等名:鳥取ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名:Frontiers Public Health

年:2022

DOI: 10.3389/fpubh.2022.848321

筆頭著者名:榎原 文

所属 UC 名:鳥取ユニットセンター

目的:

乳幼児揺さぶられ症候群(SBS)は、乳児を激しく揺さぶることで生じ、致命的な影響をもたらす。本研究は、乳児の揺さぶり行為をしたことのある母親は、揺さぶり行為や不適切な養育行動を繰り返しているのか、どのような不適切な養育行動と関連しているのかを明らかにすることを目的とした。

方法:

エコチル調査参加者のうち、死産と多胎を除いた 98,413 組の母子を解析対象とした。生後 1 か月、6 か月時点での母親の揺さぶり行為を独立変数、生後 1 か月の「赤ちゃんだけを残して出かける」「叩く」、生後 6 か月での「揺さぶり」、「予防接種未接種」「火傷」を従属変数として、ロジスティック回帰分析を行った。

結果:

生後 1 か月時点での揺さぶり行為は 16.8%、生後 6 か月時点での揺さぶり行為は 1.2%であった。出産後 1 ヶ月で乳児を揺さぶる母親は、出産後 6 ヶ月でも揺さぶる傾向があった(オッズ比=4.92)。また、揺さぶり行為と「赤ちゃんだけを残して出かける」「叩く」「火傷」は有意に関連していた(オッズ比 1=1.46, 6.60, 2.72)。

考察(研究の限界を含める):

先行研究と比較し、生後 1 か月での揺さぶり行為が 16.8%と非常に高い割合であったことから、妊娠中や産後早期から SBS を予防するための啓発を行うことが望まれる。また、揺さぶり行為は繰り返される傾向にあること、「叩く」「火傷」といった暴力的な養育行動との関連が示されたことから、1 度でも揺さぶり行為をした母親の養育行動を注意深くモニタリングする必要性が示唆された。本研究の限界は、母親の自己申告により揺さぶり行為および不適切な養育行動の有無を評価したため、過小評価あるいは過大評価につながった可能性がある点である。

結論:

揺さぶり行為をしたことのある母親は、揺さぶり行為を繰り返す傾向があること、揺さぶり行為は不適切な養育行動と関連している可能性があることが示唆された。